



アレッシオ・バックス © Lisa Marie Mazzucco

榎本大進 © Daisuke Akita

大群青 オリヴィエ・ラトリー © Deyan Parouchev

FOCUS

7.13 榎本大進 & アレッシオ・バックス

大注目の日本人ヴァイオリニスト・榎本大進の「今」を聴く

文 中村 晃

12 年前の共演

吉田秀和前水戸芸術館館長は、芸術館の活動のひとつとして、優れた若い日本人演奏家のいわば苗床のような存在として後押ししたい、という旨のことを言っていました。その想いの下、水戸芸術館ではおよそ 12 年前、当時 26 歳の榎本大進氏を、コンサートホールにお招きしています。

それは、2005 年 11 月に開催した水戸室内管弦楽団 (MCO) 第 63 回定期演奏会です。この演奏会は指揮者無しで行われ、榎本大進は独奏者として、J.S. バッハの〈オーボエとヴァイオリンのための協奏曲〉BWV1060R とメンデルスゾーンの〈ヴァイオリン協奏曲 二短調〉を演奏しました。J.S. バッハ作品では「共演するのが夢だった」と榎本が語る宮本文昭との共演が実現。メンデルスゾーン作品は、あの有名なホ短調の曲ではなく、もっと若い頃に書かれた作品。榎本は幼少時代、ニューヨークで MCO メンバーでもある田中直子に師事していますが、この作品を最初に学んだのは、この時だったそうです。そして、2005 年の演奏会では、田中直子がコンサートマスターを務め、榎本が独奏を披露する師弟共演となりました。

ベルリン・フィルのコンマス就任とソロ活動

2010 年に榎本大進は、名門ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の第 1 コンサートマスターの座に就くという快挙を成し遂げました。以来、百戦錬磨の個性的なメンバーたちをまとめ上げ、音楽監督サイモン・ラトルをはじめ世界屈指の指揮者た

ちと共演し、コンサートマスターとしてのキャリアを積んでいます。

その一方で、元来のソリストとしての活動も精力的に行っており、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団とは、サイモン・ラトルやアンドリス・ネルソンスの指揮の下、ベルリンや同団のツアーで共演しています。2010 年には J.S. バッハのヴァイオリンのための無伴奏作品全曲演奏会を実施。さらに、ピアノのコンスタンチン・リフシツと「ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ全曲演奏 & 収録プロジェクト」を行い、その CD ボックスが 2014 年にワーナー・クラシックスより世界リリースされました。

多彩なプログラム

こうした特定の作曲家に集中して取り組む活動を経て、現在の榎本大進は、より自由に、より広い視野で、自身の惹かれる作品を選び、リサイタルのプログラムを構成しています。今回のリサイタルの幕開けは、モーツァルトの〈ヴァイオリン・ソナタ〉K.379。1781 年に作曲されたバロック時代のスタイルを受け継いだ 2 楽章のソナタです。続いて、ブラームスの〈ヴァイオリン・ソナタ 第 1 番「雨の歌」〉。ロマン派のヴァイオリン・ソナタの最高峰でありブラームス作品の中でも最も演奏機会の多い作品のひとつです。作曲は 1879 年。プログラムの後半 1 曲目は、ポーランドの作曲家シマノフスキの〈神話〉作品 30。ギリシア神話から題材を採り、ドビュッシーやラヴェルなどの印象主義の作品に影響を受けて、1915 年に作曲された作品です。そして、

最後に取り上げられるのがラヴェルの〈ヴァイオリン・ソナタ〉。5 年にも及ぶ労苦の末に 1927 年に完成した作品です。和声的な厚みが避けられた透明な響きをもち、ジャズの要素も取り入れられています。

ところで、榎本大進が今回のリサイタルのパートナーとして選んだのは、リーズや浜松などの国際コンクールの覇者で、榎本にとって室内楽の盟友とも言えるイタリア人ピアニストのアレッシオ・バックスです。榎本は「楽器に触れたその瞬間のインスピレーションを、音楽にして届けたい。そう考えた時、一緒に演奏したいと思ったのがアレッシオです」と語っています。

国際舞台で大きな注目を集めている日本人ヴァイオリニスト・榎本大進の「今」を聴きに、コンサートホールにお越しください！

榎本大進 & アレッシオ・バックス

7/13 (木) 18:30 開場 19:00 開演

会場：水戸芸術館コンサートホール ATM

全席指定 一般：6,000 円

ユース (25 歳以下) 2,000 円

出演

榎本大進 (ヴァイオリン)、
アレッシオ・バックス (ピアノ)

曲目

モーツァルト：ヴァイオリン・ソナタ
ト長調 K.379

ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ

第 1 番 ト長調 作品 78 〈雨の歌〉

シマノフスキ：神話 作品 30

ラヴェル：ヴァイオリン・ソナタ ト長調

楽器持参も大歓迎！

スガダイロー率いる和洋折衷アヴァンギャルド集団による
熱狂の夏祭りを体感せよ！！

文 高巢真樹

ジャズピアノの鬼才、スガダイローが、ジャンルを越えて様々な表現者と繰り広げている全三回のプロジェクト。最終回は、スガダイローが和洋折衷アヴァンギャルド集団「大群青」を引き連れて、カオスな夏祭りをお届けします！

一、濃すぎる出演者の顔ぶれ

ジャズや邦楽の世界で活躍しながらも枠に囚われず、各界に旋風を巻き起こしている風雲児たちをご紹介します。ジャズからは、三度笠をかぶったフリージャズピアニスト「Little Blue」でスガダイローと共に聴衆を熱狂させてきた **Dr.Firebone** (サクソ) と池澤龍作 (ドラム)。菊地成孔から「変な音を出させたら日本一」と称されたバリトンサクソ奏者、**吉田隆一**。若手注目トランペット奏者、**石川広行**。邦楽界からは、日本琵琶楽コンクール優勝など屈指の実力を誇る薩摩琵琶奏者の **櫻井亜木子**。ジャズや現代詩とも融合した活動で注目を集める鼓奏者の **福原千鶴**。笛、獅子舞、チェロ奏者の **星衛**。英哲風雲の会最年少メンバーで、近年は舞台への出演も続いている太鼓奏者、**辻祐**。若手三味線奏者の **佐藤史織**。チンドン屋の **ジュンマキ堂**。さらには司会から宴会芸まで何でもこなす名物マネージャーの **ノイズ中村**。変幻自在に日本語を操る表現者、**志人**。そしてなんと納豆の妖精、**ねば〜る君**まで生出演！さらには演劇界からも出演者を迎え、スガダイローが多彩すぎる面々と、尋常でない熱気に満ちた水戸ならではの夏祭りを演出します。

二、楽器持参、ステージ飛び入り参加大歓迎！

「この公演を客席で見守るだけでは物足りない！」という方たちに朗報です。楽器持参の方も、楽器持参でない方も、公演の最後はどうぞステージに飛び入り参加してください。曲は、山下洋輔の「大名行進曲」(映画『ジャズ大名』より)。ですが、それにとらわれず自由に演奏しても OK。詳細は 6 月中旬に当館ウェブサイトでお知らせします。夏祭りのクライマックス、見ていただけじゃもったいない！一緒に盛り上がりましょう！

三、公演に向けてのスペシャルコンテンツ

公演に向けて、続々と注目コンテンツをお届け予定です。

- ①ねば〜る君が大群青メンバーとセッションを試みる youtube 動画「ねば〜る君、フリージャズに挑戦！」を 6 月中旬、当館ウェブや SNS で公開
 - ②スガダイローとねば〜る君のまさかの対談が実現！CINRA.NET にて 6 月 23 日頃公開
 - ③スガダイローたちの音楽の魅力を熟知する小説家、岡部えつによる、この公演にまつわる 3 つの短編 小説を、6 月末〜7 月中旬にかけて当館 SNS や当日プログラムに掲載
- 7 月 22 日は、ぜひ ACM 劇場でカオスな一夜をお楽しみください。

混沌と言う名のパラダイス

スガダイロー

遂にやってまいりました水戸芸術館で続けてきたプロジェクトの序破急の急、有象無象の中の無象、混沌と言う名のパラダイス、玉石混合の中のガラクタ、皆様全くご存知ないでしょうが**大群青**のお出ましで、歌あり踊りあり演劇ありジャズありラップありチンドン屋あり獅子舞あり、もうなんでもありの擬フリージャズ風和洋折衷デタラメ集団、いや、最早集団とも呼べない、ただそこにいる脅威、今そこにいる猥雑、天才から踊る阿呆、揺り

かごから墓場まで、老若男女、薩摩琵琶日本一からただの一般人、プロミュージシャンからマネージャーまで全てを抱擁した動く崩壊、水戸黄門からねば〜る君まで、芹沢鴨と徳川慶喜の対話、**ジャンジャカジャジャン！ジャカジャジャン！ジャカジャ、ジャカジャジャカジャ、お、そこにいるのは助さんかい？**そう言うお前は格さんじゃねえか！どうしたその法被は？こりゃあお前さん新撰組よ！助さんこそどうした？そのヘンテコな着物は？おフランスであつらえた軍服よう！これ着て戦えば薩長なぞ一網打尽、この紋所が目に入らぬかーっ！人生脱サラ噓あるさ、涙の箱庭耳もげる、テポドンテポドンお空と海にヒラヒラするのはなんじゃいなトコトンヤレトンヤレナ、夏が来れば思い出すアルパカオコゼソーキそばって事で観客席の皆さんも楽器持参で大騒ぎ、大乱痴気騒ぎの勃発、当日演奏する曲の譜面はネットに載せますがこんな曲やりたくねー！俺の自作の歌を聞いてくれ！って天狗党な方々、または参加したいけど楽器が下手すぎて申し訳ない！って大日本史な方々もご安心下さい、何演奏しても一向に構いません、下手なら下手なほど凄いと認識される特別な okhp システムも導入されるので誰が何してああしてこうしてどうしようとも**ジャンジャカジャジャンジャカジャジャンジャカジャジャカジャジャカジャ、**歩いてゆくんだしっかりと、自分の道を踏みしめて

スガダイロー・プロジェクト vol.3「大群青」

7/22 (土) 18:00 開場 18:30 開演

会場：水戸芸術館 ACM 劇場
全席指定 一般 3,500 円、ユース (25 歳以下) 1,000 円

出演
スガダイロー、Dr.Firebone、池澤龍作、吉田隆一、石川広行、櫻井亜木子、福原千鶴、星衛、辻祐、佐藤史織、ジュンマキ堂、ノイズ中村、志人、ねば〜る君 ほか ゆかいな仲間たち

7.23 日 オリヴィエ・ラトリー オルガン・リサイタル

ノートルダムのお人ラトリーが魅せる オルガンの多彩な表情

文・鴻巣俊博

弱冠 23 歳でパリのノートルダム大聖堂の首席オルガニストに抜擢され、およそ 35 年間に渡って、この名誉ある地位に君臨するオリヴィエ・ラトリー。長いオルガンの歴史の中でも、最も栄華を極めたと言っても過言ではない近代フランスの伝統を受け継ぎながら、革新的な試みにも意欲的に取り組み、並外れた即興演奏家としても名高い現代の名オルガニストが、水戸に初登場。ここではまず、ラトリーの本拠地であるノートルダム大聖堂の歴史を振り返ってみましょう。

パリの中心、ノートルダム大聖堂

パリを旅行されたことのある方は、シテ島にそびえ立つゴシック様式の壮麗な大聖堂に目を奪われた経験があるのではないのでしょうか。現在ではエッフェル塔、凱旋門と並んで、外せない観光名所となっているノートルダム大聖堂。パリから各地への距離を測る際には、この教会前が起点となっており、まさにパリの中心はここであることが分かります（東京でいうと日本橋のようなものですね）。今年で創建 854 年目を迎えるこの歴史ある教会も、フランス革命時には、宗教を批判する市民の略奪、破壊の標的となり、本来の姿は失われてしまいました。そのような中でも、ナポレオンが 1804 年にこの大聖堂で戴冠式を行ったという事実は、いかにこの地がパリにとって重要であるかを示していると言えるでしょう。

荒廃した大聖堂復興の一端を担ったのが、『レ・ミゼラブル』で知られる文豪、ヴィクトール・ユゴーの『ノートルダム・ド・パリ』でした。ディズニー映画など、数々の映画の原作にもなっているこの作品の発表後、国民の間で大聖堂復興運動が広まり、ついに政府は 1843 年に全面修復を決定、1864 年にはステンドグラスが特徴的であった 14 世紀当時の姿に復元されました。「文学作品が建築作品を救う」という歴史の 1 ページ。芸術が人々の心に訴えかける力の大きさを感じずにはいられない出来事です。



世界をまたにかける活躍ぶり

ヴィドール（25 歳でサン・シュルピス教会のオルガニスト就任）、メシアン（22 歳でサント・トリニテ教会のオルガニストに就任）に並ぶ、23 歳という若さでノートルダム大聖堂のオルガニストに抜擢されたラトリー。2012 年からモントリオール国立管弦楽団の名誉オルガニスト、今年からドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団のアーティスト・イン・レジデンスも務め、今までに 5 大陸 40 以上の都市で演奏、サーリアホ、ガンドルフィの作品をはじめ、多くの曲の世界初演をするなど、八面六臂の活躍を見せています。50 代半ばを迎えた現在、華麗で確固たるテクニックに加え、円熟味を増した演奏と即興で、名実ともに世界屈指のオルガニストと目されています。

意欲的なプログラム そして期待の即興演奏

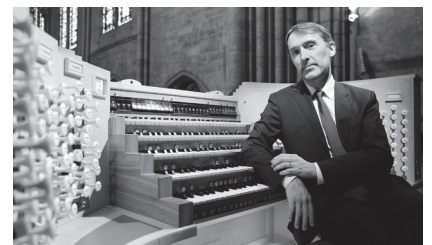
彼が水戸のために用意したプログラムは、16 世紀後半の曲に始まり、ラトリー自身の即興演奏で締めくくられるという構成。ルネサンス期、フランドル地方で親しまれていた舞曲を基にした〈7 つの舞曲〉で幕を開け、ルイ 14 世の宮廷で活躍したフランス・バロック音楽の大家リュリの作品を、同時代のオルガニスト、ジョフロワが編曲した版が続きます。その次の〈「かつこう」によるカプリッチョ〉は、リュリと同時代にドイツで活躍したケルルの作品。前半を締めくくるのは、ドイツ・バロック期のオルガン音楽の頂点を極めた J.S. バッハの、4 楽章から成る〈オルガン協奏曲 二短調〉（原曲はヴィヴァルディの〈調和の靈感 第 11 番〉）。

後半は、20 世紀フランスのアラン作曲〈リタニ（連祷）〉で始まります。この題名を見ると、いかにも厳かな雰囲気曲を想像してしまいがちですが、聴いてみると明るく賑やかな曲なので、そのギャップに驚くと思います。ジャンの妹で、著名なオルガニスト、マリー＝クレール・アランによると、この題名は作曲後につけられたものだとのこと。即興演奏の前に奏されるのは、1934 年からサン・シュルピス教会のオルガニストを務めたフランスの巨匠、デュブレの〈前奏曲とフーガ ト短調〉。グレゴリオ聖歌の「ディエス・イレ（怒りの日）」を思わせるテーマが、壮大に展開される名曲です。

今回のプログラムを特徴付けているの

は、ケルルと J.S. バッハ、アランとデュブレの間に挟まれている「オルガンとテープのための」と記された、現代の作曲家ヨン・ラウクヴィック（1952-）と、ジェイムズ・モバリー（1954-）の作品。スピーカーから流れる別収録音源と、オルガンの生演奏で披露される作品で、他の曲とは異なる音響空間を体験することができます。モバリーの〈臨界質量〉は、2015 年に落成したパリの新コンサートホール、フィルハーモニー・ド・パリのオルガン披露演奏会のために書かれた新作で、ラトリーが初演をしました。

既存の曲の演奏もさることながら、やはり彼の真骨頂は即興演奏でしょう。ノートルダムでもミサの始まりと終わりに演奏されることがあるという彼の即興。動画サイトにもアップロードされておりますので、是非「Olivier Latry improvisation」で検索してみてください。シンプルな音型に装飾を加え、重厚な和音を付け、変幻自在に操る様は圧巻。さて、水戸ではどのような即興が繰り広げられるのでしょうか。お楽しみに！



オリヴィエ・ラトリー オルガン・リサイタル

7/23 (日) 18:00 開演 (17:30 開場)

会場 水戸芸術館エントランスホール
全席指定 A 席 3,000 円 B 席 2,000 円
ユース (25 歳以下) 1,000 円

曲目

リュリ（ジョフロワ編曲）：〈イシス〉より序曲、
〈テセウス〉より行進曲

ラウクヴィック：MM ～オルガンとテープのための
J.S. バッハ：オルガン協奏曲 二短調 BWV596（原
曲 / ヴィヴァルディ作曲 〈調和の靈感 第 11 番〉）

アラン：リタニ

モバリー：臨界質量～オルガンとテープのための
デュブレ：前奏曲とフーガ ト短調 作品 7

ラトリー：即興演奏 ほか

8.12^土 at 15:00 NHK 水戸児童合唱団 第5回定期演奏会

茨城県域デジタル放送を記念して2004年に発足したNHK水戸児童合唱団は、お陰様で活動開始から13年目を迎え、現在約90名のメンバーが活動しています。3年ぶりの定期演奏会ですので、団員一同とても張り切っています。

演奏会の内容をご紹介します。第1ステージは「NHK みんなのうた」と「連続テレビ小説」のテーマソングです。「みんなのうた」で放送されている、今年度のNHK全国学校音楽コンクール課題曲〈願いごとの持ち腐れ〉も演奏致します。

第2ステージで演奏するのは、音楽劇〈赤毛のアン〉です。谷川賢作作曲・吉峯暁子作詞脚本によるこの音楽劇は「宝塚少年少女合唱団」の委嘱による作品ですが、今回、同合唱団のご厚意

で演奏できることになりました。長い間沢山の皆様に愛され続けている〈赤毛のアン〉の物語が、美しくワクワクする音楽と共に繰り広げられます。

第3ステージは寺嶋陸也作曲の〈生きもののうた〉です。1943年に発表された、室生犀星〈動物詩集〉に作曲されたものですが、詩集の発表から70年以上過ぎた今も、その言葉たちは寺嶋氏の音楽を通して、子供たちに瑞々しく語りかけます。作曲家自身によるピアノもお楽しみ下さい。

第4ステージは寺嶋陸也作曲の〈沖縄のスケッチ〉です。このステージも、勿論、寺嶋先生のピアノ伴奏で演奏致します。この曲集は沖縄の民謡をもとに作曲されていますので、美しいメロディーやエイサーなど、馴染みのあるフレーズが沢山歌われます。太鼓

やパーランクー、三線などの沖縄の楽器、また衣装もお楽しみ頂ければと思います。

合唱団のメンバーは、学校の勉強や部活動などで忙しい中、一生懸命練習しております。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

NHK 水戸児童合唱団正指揮者
原田昌江



8.11^{金・祝} パイプオルガン・プロムナード・コンサート 夏休みスペシャル

注目の若手イタリア人オルガニスト、ダヴィデ・マリアーノ登場！

文・高巢真樹

普段は日本の若手オルガニストを中心に招きしている「パイプオルガン・プロムナード・コンサート」。今年の夏休みスペシャルは、イタリア出身で、ウィーン楽友協会やベルサイユ宮殿王立礼拝堂など世界各国で演奏活動を行っている注目の若手オルガニスト、ダヴィデ・マリ

アーノさんが登場します。コンサートは、プッチーニの歌劇〈ラ・ボエーム〉より「ムゼッタのワルツ（私が街をあるけば）」で歌心たっぷりに開幕し、各国のオルガンの名作をお楽しみいただく予定です。ぜひご家族そろってお楽しみください！



8.13^日 ピーすプロジェクト

“水戸市平和大使による作文朗読発表会とパイプオルガン・プロムナード・コンサート”

文・中村 晃

太平洋戦争終結から70数年。終戦を迎えた8月を「戦争と平和を考える月間」として、風化しつつある「戦争」と「水戸空襲」の記憶を若い世代に伝え、平和の大切さを皆で考える「び〜すプロジェクト」。その一環として8月13日エントランスホールで、水戸市主催の「わたしたちの平和」作文コンクールで優秀な成績を収めた2人の小中学生の朗読発表とパイプオルガンの演奏をお届けします（13:30 開演・入場無料）[水

戸市市民協働部文化交流課との共同制作]。オルガン演奏は、小澤征爾館長指揮のサイトウ・キネン・オーケストラの一員としてカーネギーホール公演などにも出演、水戸芸術館では「市民のためのオルガン講座」の講師としてお馴染みの室住素子さん。ホルスト〈惑星〉より「火星」、カザルス〈鳥の歌〉、J.S. バッハ〈マタイ受難曲〉より「憐れみたまえ」、R.W. スミス〈明日へのファンファーレ〉などが演奏されます。



8.27(日) 第2回 茨城の名手・名歌手たち 藝文コンサート ―夏 Summer―

(会場：常陽藝文ホール)

茨城の名手・名歌手たちのスペシャル・コンサート

文・篠田大基

茨城県ゆかりの優れた演奏家を紹介してきた水戸芸術館のオーディション企画「茨城の名手・名歌手たち」に、今年から新シリーズ「茨城の名手・名歌手たち 藝文コンサート」が加わりました。常陽銀行のご後援、常陽藝文センターとの共催により、水戸市内の常陽藝文ホールを会場に、過去のオーディション合格者たちのスペシャル・コンサートです。毎回3組程度の出演者により、年2回の開催を予定しており、今年の3月5日に開催した第1回に続いて、8月27日に第2回を開催する運びとなりました。今回は暑い季節ということで、「夏」をキーワードにして、ご出演の方々は夏に因んだ曲を1曲ずつプログラムに盛り込んでいただいています。夏に聴きたい情熱の音楽、涼やかな音楽、夏の風物を描いた音楽……、個性豊かな3つのステージをお楽しみください。

第1ステージは、フルート奏者の桑名奈津子さん(2007年第18回合格)の演

奏。プログラムの中で、19世紀フランスの巨匠サン＝サーンスによる優美な〈ロマンス〉と、同じくフランスで20世紀において原始的な音の世界を探究し続けた異色の作曲家ジョリヴェによる〈リノスの歌〉という、音楽性の異なるフルートの名曲2作品は、面白いコントラストを形づくっています。第2ステージは、澤辺明音さん(2013年第23回合格)によるピアノ・ソロ。イベリア半島起源の「フォリア」と呼ばれる旋律をもとにピアノの大家リストが作り上げた〈スペイン狂詩曲〉は特にご注目いただきたい1曲。高いレベルの演奏技巧を要するリストの作品のなかでも最高難易度に分類される作品のひとつです。最後の第3ステージは歌のステージ。昨年の第26回に合格したテノールのチョン・キヒョンさんにより、モーツァルトの《魔笛》の中のアリア〈なんと美しい絵姿〉や、イタリアの戦前の映画の主題歌〈マリオ、愛の言葉〉などが披露されます。昨年の演奏会で

も個性の光る選曲をされていたチョンさん。今回のプログラムも楽しみです。

「茨城の名手・名歌手たち 藝文コンサート」は、水戸芸術館友の会や財団運営維持会員の皆様、藝文友の会会員、学生(小学1年生以上)の方は、事前のお申し込みで無料(一般の方は1,000円)でお聴きいただけます。皆様のご来場をお待ちしております。

第2回 茨城の名手・名歌手たち 藝文コンサート ―夏 Summer― 8/27 (日) 14:00 開場 14:30 開演

会場 常陽藝文ホール(水戸市三の丸1-5-18)
全席自由(要事前申込) 一般1,000円
水戸市芸術振興財団運営維持会員、水戸芸術館友の会、藝文友の会会員、学生は無料
申込先 常陽藝文センター TEL 029-231-6611
出演 桑名奈津子(フルート)、忠 紗友里(ピアノ)、澤辺明音(ピアノ)、チョン・キヒョン(テノール)、棟方真央(ピアノ)
主催 公益財団法人 常陽藝文センター
公益財団法人 水戸市芸術振興財団
後援 株式会社 常陽銀行

2017.5.12, 14

水戸室内管弦楽団 第99回定期演奏会

別府アルゲリッチ音楽祭との共同制作で、現代最高のピアニストの一人マルタ・アルゲリッチさんをソリストに迎えて開催した水戸室内管弦楽団(MCO)第99回定期演奏会。アルゲリッチさんが選んだのはベートーヴェンの〈ピアノ協奏曲 第1番〉作品15。小澤館長は初日の演奏会を振り返って「マルタは、オケのメンバーが自分の音をよく聴いているのを分かって弾いている。そしてマルタもオケの音をよく聴いているから、室内楽の頂点みたいな演奏ができた。指揮者がいてもいなくても演奏しているという、本当の室内楽みたいな音楽ができて、僕はこのオーケストラのことを誇りに思ったし、満足だし、嬉しかった」と語った。プログラムの前半は、MCO弦楽セクションによるグリーグの〈ホルベアの時代より〉作品40と9つの管楽器のためにグノーが書いた〈小交響曲〉を指揮者無しで演奏した。演奏会では各日もアルゲリッチさんがアンコールでソロ曲を披露した。12日はシューマン作曲/リスト編曲の〈献呈〉、14日はスカラッティの〈ソナタ 二短調〉L.422。《中村》アンケートから■まさか水戸でアルゲリッチさんのピアノが聴けるとは夢にも思っていなかったの、とてもとてもうれしいです。前半の2曲もとてもおもしろく、新

たな発見でした。(水戸市の方) ■演奏の感動は素晴らしく、長く記憶に残ることでしょう。ホールのもつ力もさらに相乗効果を与えているのかと思います。(静岡県島田市:M.S.さん) ■アルゲリッチ女史の演奏は、繊細かつ力強さがみなぎっており、聴きほれてしまった。小澤征爾さんとの共演は互いの音楽性を知り尽くした上での安心感のようなものを漂わせていた。両巨匠とMCOによる夢の共演は“まるでリッチ!”(水戸市:T.M.さん)

2017.5.17

水戸室内管弦楽団 大分公演

第19回別府アルゲリッチ音楽祭の一環として、iichiko 総合文化センターで開催された大分公演。1966席を擁する大ホールでの演奏であったが、ニュアンスに富んだ繊細かつダイナミックな演奏は、水戸での演奏会と変わることはない。ベートーヴェン作品の演奏が終わると、会場は熱狂的な拍手と歓声に包まれた。アルゲリッチさんのアンコール曲は14日の水戸と同じスカラッティの〈ソナタ 二短調〉L.422。演奏会の最後に、昨秋の外国人叙勲で、旭日中綬章を受章したアルゲリッチさんに対する勲章と勲記の伝達式が行われた。広瀬勝貞大分県知事から勲章と勲記が手渡され、小澤館長とMCOがモーツァルトの〈ディヴェルティメント〉K.136の第1楽章をお祝いにサプライズ演奏した。《中村》

最近の公演から



© Rikimaru Hotta

1-2: 水戸室内管弦楽団 第99回定期演奏会

3: 水戸室内管弦楽団 大分公演

チケット・インフォメーション

《6月24日(土) 発売分》

■ケルティック・ヴィオール ～人と自然～
 ジョルディ・サヴァール (ヴィオール) ほか
 9/15 (金) 19:00 開演
 料金 [全席指定] 一般 ¥4,000 / ユース (25歳以下) ¥1,500

■茨城の名手・名歌手たち 第27回 (司会: 宮本文昭)
 9/16 (土) 18:00 開演
 料金 [全席自由] ¥1,500

■中田恵子 オルガン・リサイタル ～音の展覧会～
 9/24 (日) 18:30 開演
 料金 [全席自由] 一般 ¥2,000 / 大学生以下 ¥1,000

■千葉博美 ピアノ・リサイタル ～ハンガリーを愛した作曲家たち～
 11/19 (日) 14:00 開演
 料金 [全席自由] 一般 ¥2,500 / 大学生以下 ¥1,500

■茅根順子 リサイタルVI ～日本歌曲のひとつとき～
 11/25 (土) 14:00 開演
 料金 [全席自由] 一般 ¥3,000 / 高校生以下 ¥2,000

《7月29日(土) 発売分》

■水戸室内管弦楽団 第100回定期演奏会 (指揮: 小澤征爾、ラデク・パボラーク)
 10/13 (金) 19:00 開演、10/15 (日) 15:00 開演
 料金 [全席指定] S席 ¥30,000 / A席 ¥25,000 / B席 ¥20,000

※水戸室内管弦楽団第100回定期演奏会には、7/25 (火) より財団運営維持委員会、7/26 (水) より友の会 (一般、法人) 会員の先行電話予約がありますので、7/29 (土) の一般発売の時点で、公演日や券種によってはお客様の希望に添えない場合があります。予めご了承ください。
 ※発売初日に水戸芸術館でお求めになれるチケットは、水戸室内管弦楽団第100回定期演奏会では、お1人様1回につき2枚までとさせていただきます。

これからの演奏会・残席情報

○…残席あり (20席以上) △…残席わずか (20席未満) ×…残席なし
 中央…中央ブロック 左右…裏…左右ブロックおよびステージ裏 補助…補助席
 ◎ラッヘンマンの肖像……………6/17 (土) 中央○、左右○
 ◎榎本大進 (ヴァイオリン) & アレッシオ・バックス (ピアノ)
 ……………7/13 (木) 中央×、左右・裏○
 ◎スガダイロー・プロジェクト vol.3 「大群青」
 ……………7/22 (土) 1F△、2F○、3F○ (ACM劇場)
 ◎オリヴィエ・ラトリエ オルガン・リサイタル
 ……………7/23 (日) 1F○、2F○ (エントランスホール)
 ◎NHK 水戸児童合唱団 第5回定期演奏会……………8/12 (土) 自由席○

※5/31 (水) 現在の状況です。
 ※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

水戸芸術館の主な7・8月のスケジュール

コンサートホール ATM

■榎本大進 (ヴァイオリン) & アレッシオ・バックス (ピアノ)
 7/13 (木) 19:00 開演
 料金 [全席指定] 一般 ¥6,000 / ユース (25歳以下) ¥2,000

■NHK 水戸児童合唱団 第5回定期演奏会
 8/12 (土) 15:00 開演
 料金 [全席自由] 一般 ¥1,500 / 大学生以下 ¥800

■《第49回 水戸市芸術祭》

□市民音楽会 7/9 (日) 13:00 開演 入場無料 [全席自由]
 □水戸市合唱祭 7/17 (月・祝) 10:30 開演 入場無料 [全席自由]
 □少年少女合唱祭 7/30 (日) 14:00 開演 入場無料 [全席自由]
 □ジュニアオーケストラ演奏会 8/20 (日) 14:00 開演 料金 [全席自由] ¥500
 □交響楽演奏会 8/27 (日) 14:00 開演 料金 [全席自由] ¥1,500

エントランスホール

■オリヴィエ・ラトリエ オルガン・リサイタル

7/23 (日) 18:00 開演
 料金 [全席指定] A席 ¥3,000 / B席 ¥2,000 / ユース (25歳以下) ¥1,000

■パイプオルガン・プロムナード・コンサート 入場無料

□7/1 (土) リオネル・アヴォ 12:00～ / 13:30～、7/8 (土) 龍田優美子 11:00～、7/29 (土) 千田寧子 13:00～ (各回30分程度)
 □8/11 (金・祝) 《夏休みスペシャル》ダヴィデ・マリアーノ 13:00～ (45分程度)
 □8/13 (日) 《び〜すプロジェクト》室住素子 13:30～ (45分程度)

ACM劇場

■『ニッポン芸能史を生きた男・森田さんの愉快な一生』

7/8 (土) 15:00 開演
 料金 [全席指定] S席 ¥4,000 / A席 ¥3,500

■スガダイロー・プロジェクト vol.3 「大群青」

7/22 (土) 18:30 開演
 料金 [全席指定] 一般 ¥3,500 / ユース (25歳以下) ¥1,000

■親子のためのファミリー・ミュージカル『ピノキオ または白雪姫の悲劇』

7/28 (金) 15:00 開演、7/29 (土) 11:00 / 15:00 開演、7/30 (日) 11:00 開演
 料金 [全席指定] こども (4歳以上高校生以下) ¥1,500 / 大人 ¥3,000

■《第49回 水戸市芸術祭》

□バレエフェスティバル 7/2 (日) 14:00 開演 料金 [全席指定] ¥500
 □演劇フェスティバル
 ・茨城大学演劇研究会『ノスタルジック・カフェ ～1971年、あの時君は～』
 8/18 (金) 18:30 開演 料金 [全席自由] 前売り ¥800 / 当日 ¥1,000
 ・プロフェッショナルファウル『ロボット』
 8/19 (土) 16:00 開演 料金 [全席自由] 一般 ¥1,500 / 大学生以下 ¥1,000
 ・劇団 OH-NENS『キャッシュ・オン・デリバリー』
 8/20 (日) 16:00 開演 料金 [全席自由] 前売り ¥800 / 当日 ¥1,000
 ・舞踊劇団「創 (生まれる)」『楓、楓、風、鼓と音と伝気!』
 8/25 (金) 18:00 開演 料金 [全席自由] ¥1,500
 ・演劇フェスティバル実行委員会『ジャガーの眼』
 8/26 (土) 18:00 開演、8/27 (日) 13:00 開演 料金 [全席自由] ¥1,500

現代美術ギャラリー

■《第49回 水戸市芸術祭》美術展覧会 第2期 (書・写真・デザイン・インスタレーション)

6/28 (水) ～ 7/9 (日) 9:30～18:00 入場無料
 ※入場は17:30まで ※ただし7/3 (月) は休館

チケットに関するお問い合わせ

水戸芸術館チケット予約センター TEL 029-231-8000

営業時間: 9:30～18:00 (月曜休館)

公演内容や企画に関するお問い合わせ

水戸芸術館音楽部門 TEL 029-227-8118

ホームページ <http://arttowermito.or.jp/>

公式ブログ <http://blog.arttowermito.or.jp/staff/>

ATM 便り 毎月1回茨城新聞に不定期登場



@ConcertHall_ATM @art_tower_mito

www.facebook.com/arttowermito

編集後記

先月に引き続き風邪をひき、丸4日間寝込みました。問題はその後。体中の筋肉が衰えたようで、完全なるスタミナ不足に。しばらく家でゴロゴロしていたら、色んな人に“体幹トレーニングしろ”と言われる始末です。(り)

気づけばもう6月。やっと毎日暖かくなり過ごしやすくなりました。冬生まれですが寒さは苦手なので、最近はお昼休みに外に日向ぼっこに出かけてぼーっとする事が密かなマイブームになっています。(咲)

先日、パイプオルガン・プロムナード・コンサートのアシスタントを初めて務めました。譜めくりだけでなく、楽譜に書き込まれたタイミングで音を変えるボタンも押すお仕事。演奏者以上に緊張していたと思います… (鴻)

子どもたちの写真を整理していて、子どもの顔つきが目まぐるしく変化していたことを発見。それも一方向的な変化ではないから面白いものです。成長って真直ぐではなくて、そぞろ歩くように進むものなのでしょうね。(篠)

1月はインフルエンザでダウンしてしまっただけで、今度こそはと気合いを入れて臨んだ5月のMCO。1月以上に熱に浮かされたような(?)10日間でした。さて、次はいよいよ第100回定期演奏会。《第九》です! (て)

ねば～る君とスガさんが対談しちゃいました。ねば～る君は「破壊して創造するところが、スガさんと似てるネバ～」と同志感を抱いた様子。このポップでトリッキーな対談記事はCINRA.NETにて! (樹)

井門富二夫先生から「神殺しの時代」の洗礼を受けてから約30年。同じ筑波大で今度は話しをする立場となりラッヘンマンの《GOT LOST (God lost)》等を紹介してきた。街の中心のクレオも閉店してしまい、時の移ろいを感じる (中)

水戸芸術館音楽紙「ヴィーヴロ」
 2017年7月発行 第220号
 編集発行: 水戸芸術館音楽部門
 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8
 TEL 029-227-8118 FAX 029-227-8130
 E-MAIL ankmr@arttowermito.or.jp